

2026年3月期決算説明

2026年5月13日

 日本カーバイド工業株式会社



2026年3月期決算の概要



サマリー【連結損益計算書】

- 電子・機能製品事業は、医薬品や農薬向け製品の出荷が増加したが、光学関連分野向け粘・接着剤では中国市場での競争激化により出荷が減少。
- フィルム・シート製品事業は、米国追加関税措置により損益へマイナスに影響を受けたが、自動車向け3Dエンブレムの出荷やブラジルでの二輪車関連製品の出荷が増加。
- 建材関連事業は、高強度高機能手すりの出荷が増加。
- エンジニアリング事業は、EPC事業(※)の拡大により売上が増加。
- 米国関税措置影響として営業利益1.1億円程度の悪化。
- 以上の結果、固定資産の減損損失があったが、当期純利益は**増益**。

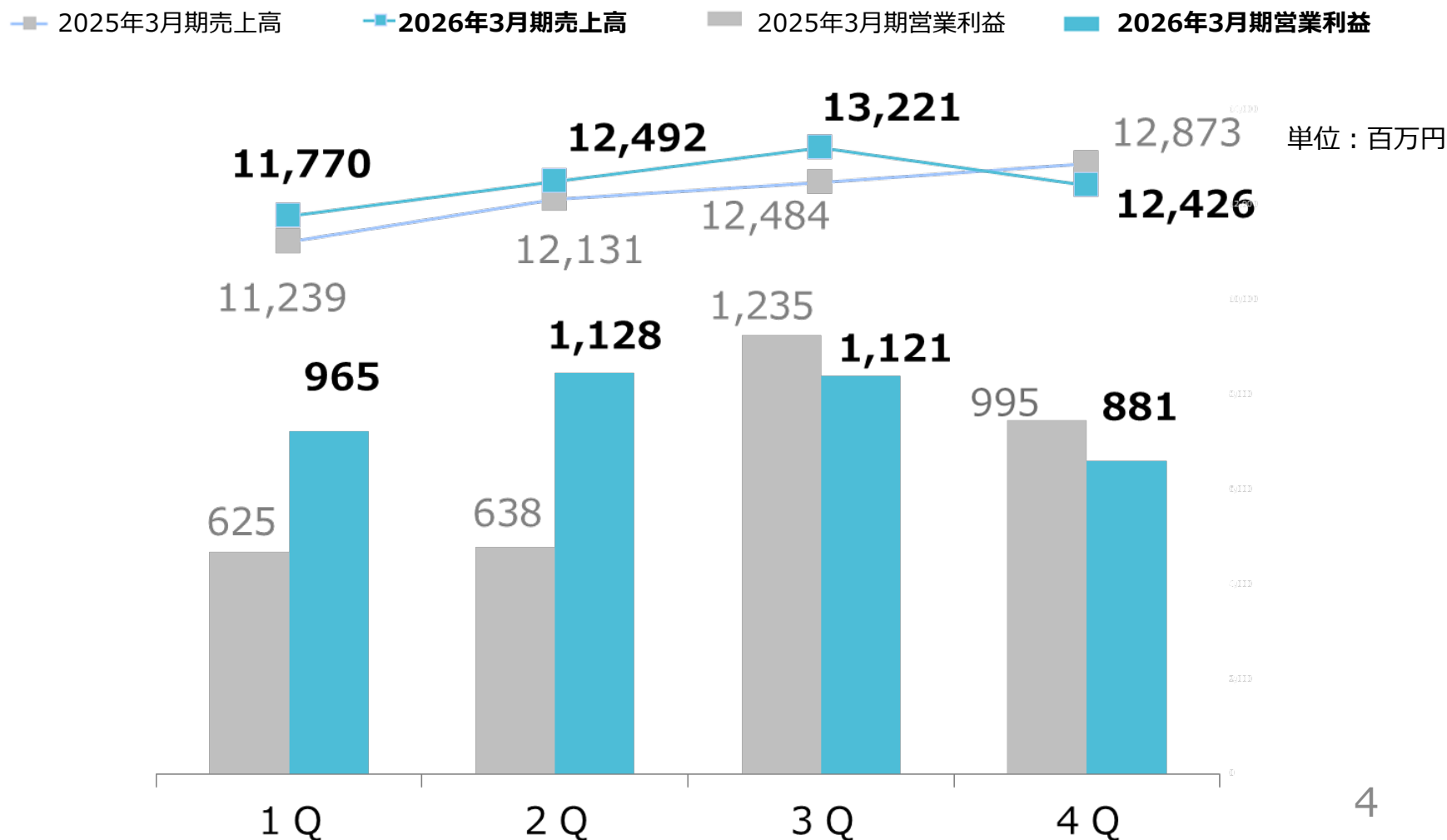
単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	48,727	49,909	1,182	+2.4%
営業利益	3,493	4,095	601	+17.2%
営業利益率	7.2%	8.2%	—	+1.0 ポイント
経常利益	3,761	4,583	821	+21.9%
当期純利益	2,211	2,607	396	+17.9%



四半期業績トレンド

- ・売上高は1 Q／2 Q／3 Qは前年同期比増収だが、4 Qは減収。
- ・第4四半期の営業利益は、減収と期末決算調整等により第3四半期比減益。

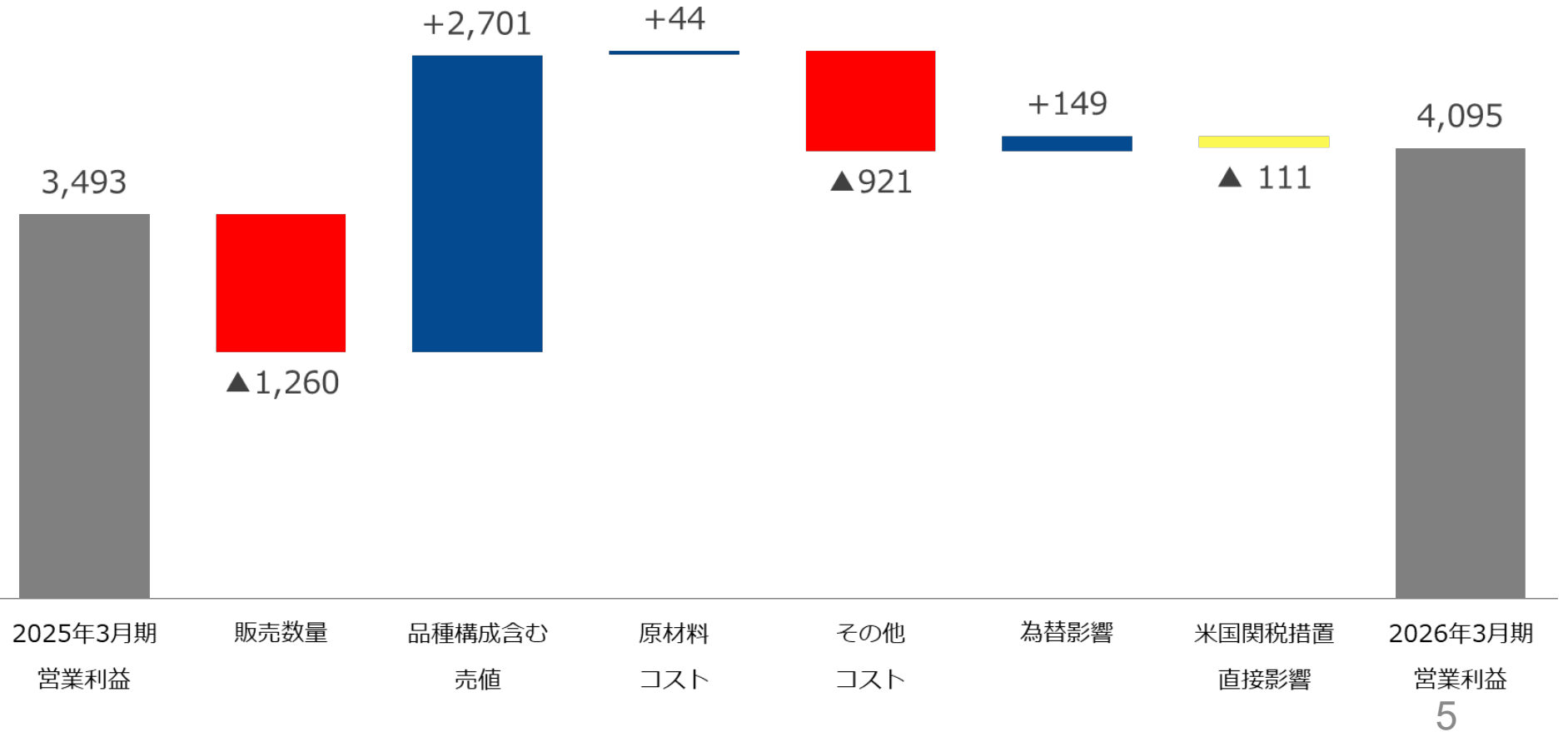


営業利益増減要因分析 2025年3月期v.s.2026年3月期



前期比 601百万円増益

単位：百万円



セグメント別業績



単位：百万円

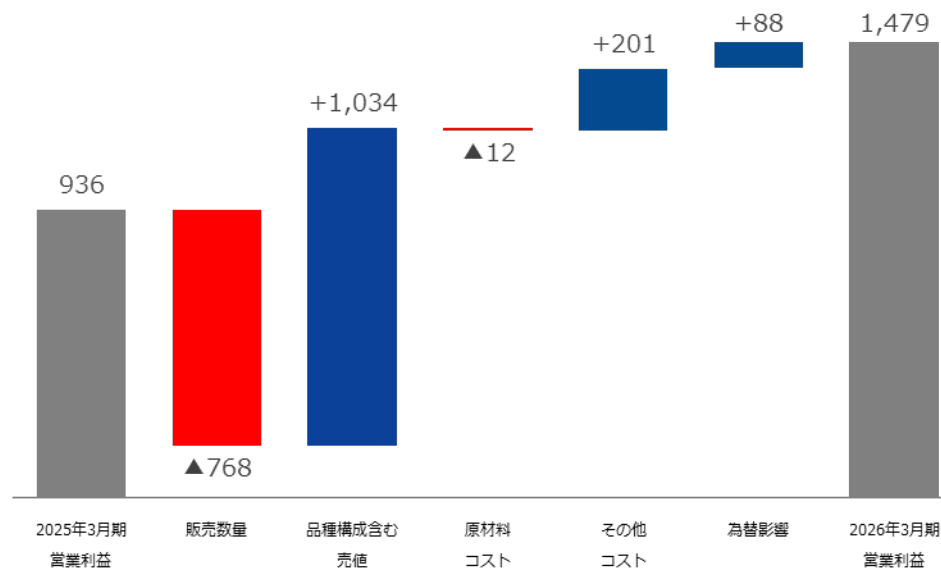
		2025年3月期	2026年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	17,414	16,837	▲ 577	▲3.3%
	営業利益	936	1,479	543	+58.0%
フィルム・シート製品	売上高	20,955	22,395	1,440	+6.9%
	営業利益	2,568	2,945	377	+14.7%
建材関連	売上高	7,004	7,109	105	+1.5%
	営業利益	75	90	15	+20.0%
エンジニアリング	売上高	3,598	4,041	443	+12.3%
	営業利益	433	233	▲ 199	▲46.0%
連結調整	売上高	▲ 245	▲ 474	▲ 229	-
	営業利益	▲ 518	▲ 655	▲ 137	-
連結合計	売上高	48,727	49,909	1,182	+2.4%
	営業利益	3,493	4,095	601	+17.2%

セグメント別状況 電子・機能製品事業



単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	17,414	16,837	▲ 577	▲ 3.3%
機能化学品	4,225	4,763	538	+12.7%
機能樹脂	7,562	5,648	▲ 1,914	▲ 25.3%
電子素材	5,625	6,425	799	+14.2%
営業利益	936	1,479	543	+58.0%



機能化学品 増収増益

- + 医薬品や農薬向け製品の出荷が増加
- + エレクトロニクス市況の緩やかな回復に伴い、半導体向け製品の出荷が増加
- + 製品価格の改定による損益へのプラス影響

機能樹脂 減収減益

- 中国市場での競争激化により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が減少

電子素材 増収増益

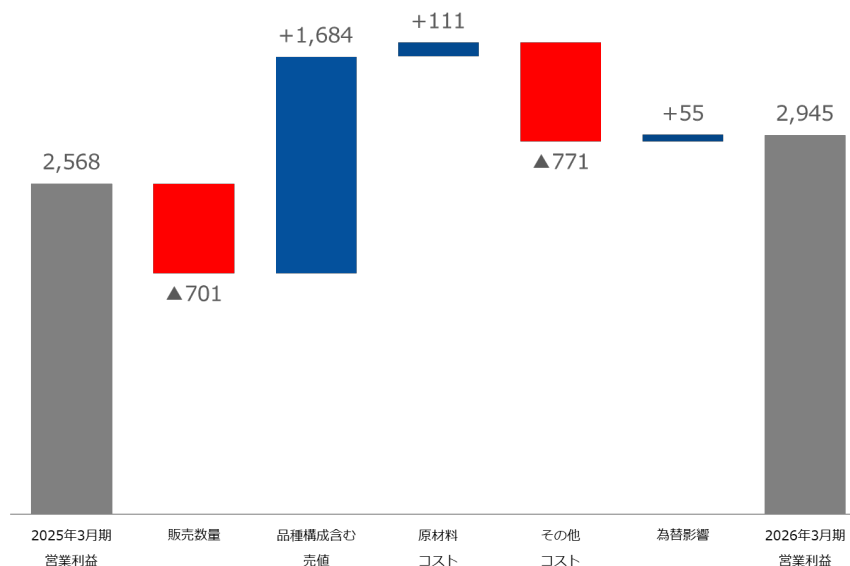
- + 電子部品向け製品の出荷が増加
- + 製品価格の改定による損益へのプラス影響
- + 為替による損益へのプラス影響



セグメント別状況 フィルム・シート製品事業

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	20,955	22,395	1,440	+6.9%
フィルム	1,488	1,524	36	+2.4%
ステッカー	7,247	8,013	766	+10.6%
再帰反射シート	12,219	12,857	639	+5.2%
営業利益	2,568	2,945	377	+14.7%



フィルム 増収増益

- + 中国での拡販により、レーザーマーキングラベルの出荷が増加

ステッカー 増収増益

- + 米国での拡販により、自動車向け3Dエンブレムの出荷が増加
- + ブラジルでの二輪車生産台数の増加により、二輪車関連製品の出荷が増加
- + 為替による損益へのプラス影響

再帰反射シート 増収増益

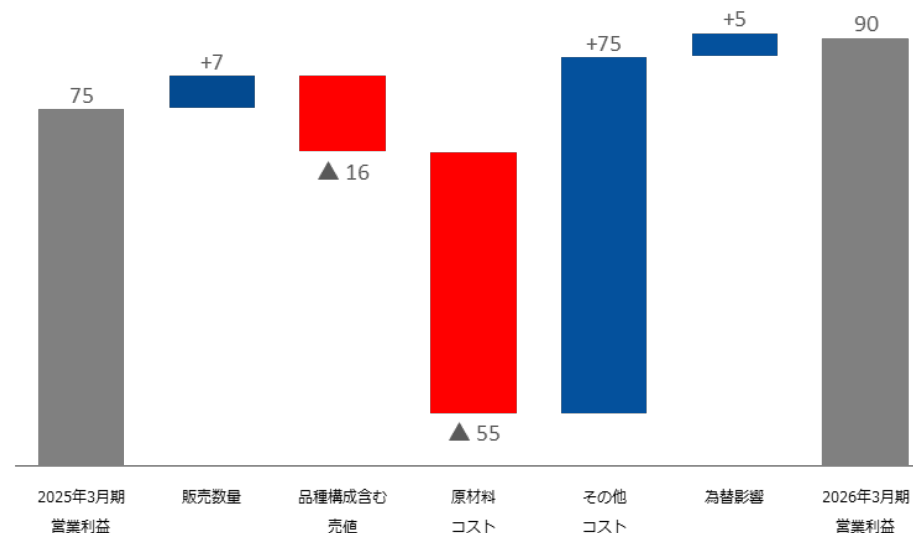
- + ナンバープレート向け製品の出荷が増加
- + 為替による損益へのプラス影響
- 米国追加関税措置による損益へのマイナス影響

セグメント別状況 建材関連事業



単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	7,004	7,109	105	+1.5%
営業利益	75	90	15	+20.0%



増収増益

- + マンション向け高強度高機能手すりの出荷が増加
- アルミ地金価格高騰による原材料価格の上昇により損益へのマイナス影響

セグメント別状況 エンジニアリング事業



単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	3,598	4,041	443	+12.3%
営業利益	433	233	▲ 199	▲46.0%

増収減益

- + EPC事業(Engineering：設計 Procurement：調達 Construction：建設の3工程を一貫して引き受ける事業)の拡大により売上が増加
- 資材価格高騰等により収益性が低下

【サマリー】 連結貸借対照表



単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期末比
現金及び預金	14,538	15,552	1,014
売上債権	13,928	12,840	▲ 1,089
棚卸資産	9,671	10,019	349
有形固定資産・無形固定資産	23,712	22,404	▲ 1,308
その他	1,511	1,950	439
資産合計	63,360	62,765	▲ 594
有利子負債	9,902	7,107	▲ 2,794
仕入債務	5,890	5,182	▲ 708
その他	9,662	9,528	▲ 133
負債合計	25,454	21,817	▲ 3,636
株主資本	25,388	27,262	1,874
その他の包括利益累計額	10,333	11,196	862
非支配株主持分	2,184	2,489	305
純資産合計	37,906	40,948	3,042
負債純資産合計	63,360	62,765	▲ 594
D/Eレシオ	0.28	0.18	▲ 0.10
自己資本	35,721	38,458	2,737
自己資本比率	56.4%	61.3%	4.9ポイント

連結キャッシュフロー計算書



フリーキャッシュフローは4,253百万円。

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期比
税金等調整前当期純利益	3,460	3,975	514
減価償却費	1,921	1,860	▲ 61
運転収支	▲ 717	411	1,128
その他	▲ 559	▲ 679	▲ 120
営業活動によるキャッシュフロー	4,105	5,567	1,462
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 1,212	▲ 1,313	▲ 101
フリーキャッシュフロー	2,893	4,253	1,360
借入金の増減額	▲ 1,551	▲ 2,751	▲ 1,200
配当金の支払額	▲ 837	▲ 754	82
その他	▲ 155	▲ 191	▲ 35
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 2,543	▲ 3,696	▲ 1,153
現金及び現金同等物に係る換算差額	656	220	▲ 435
現金及び現金同等物の増減額	1,006	778	▲ 228
現金及び現金同等物の期末残高	13,063	13,842	778



戦略市場分野における事業環境の変化等を背景に、設備投資計画の見直しを実施し、前期比271百万円減少。

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	前期比
設備投資額	1,208	937	▲ 271
電子・機能製品	501	472	▲ 29
フィルム・シート製品	290	312	22
建材関連	65	51	▲ 14
エンジニアリング	47	21	▲ 26
共通・調整	303	79	▲ 224
減価償却費	1,921	1,860	▲ 61
電子・機能製品	713	732	19
フィルム・シート製品	627	617	▲ 10
建材関連	93	92	▲ 1
エンジニアリング	60	41	▲ 19
共通・調整	426	375	▲ 51
研究開発費	2,020	2,075	55

主な設備投資案件

- 電子・機能製品事業向け環境負荷低減のための設備刷新
- 電子・機能製品事業向け安定品質、及び安全対策のための設備刷新

※設備投資額は、設備等が検収された時点
を以て資産計上された金額。投資活動による
キャッシュフローの有形固定資産の取得
による支出は検収された設備等の資金が実
際に支払われた時点での金額となり、差異
が生じる



2027年3月期決算の通期業績予想



2027年3月期 連結業績予想

- ・売上高は前期比4.2%の増収となる52,000百万円、
- ・営業利益は前期比9.9%の増益となる4,500百万円を予想
- ・中東情勢不安定化による影響については、当面の調達に大きな支障はないものの、原材料価格等の上昇については、価格転嫁を含め現時点で把握している範囲で織込み。

単位：百万円

	2026年3月期		2027年3月期業績予想		前期比	
	実績	利益率	業績予想	利益率	増減額	増減率
売上高	49,909	—	52,000	—	2,091	+4.2%
営業利益	4,095	8.2%	4,500	8.7%	405	+9.9%
経常利益	4,583	9.2%	4,700	9.0%	117	+2.5%
当期純利益	2,607	5.2%	3,100	6.0%	493	+18.9%
1株当たり 配当	中間	41円	—	67円	42円	+45.7%
	期末	51円	—	67円		

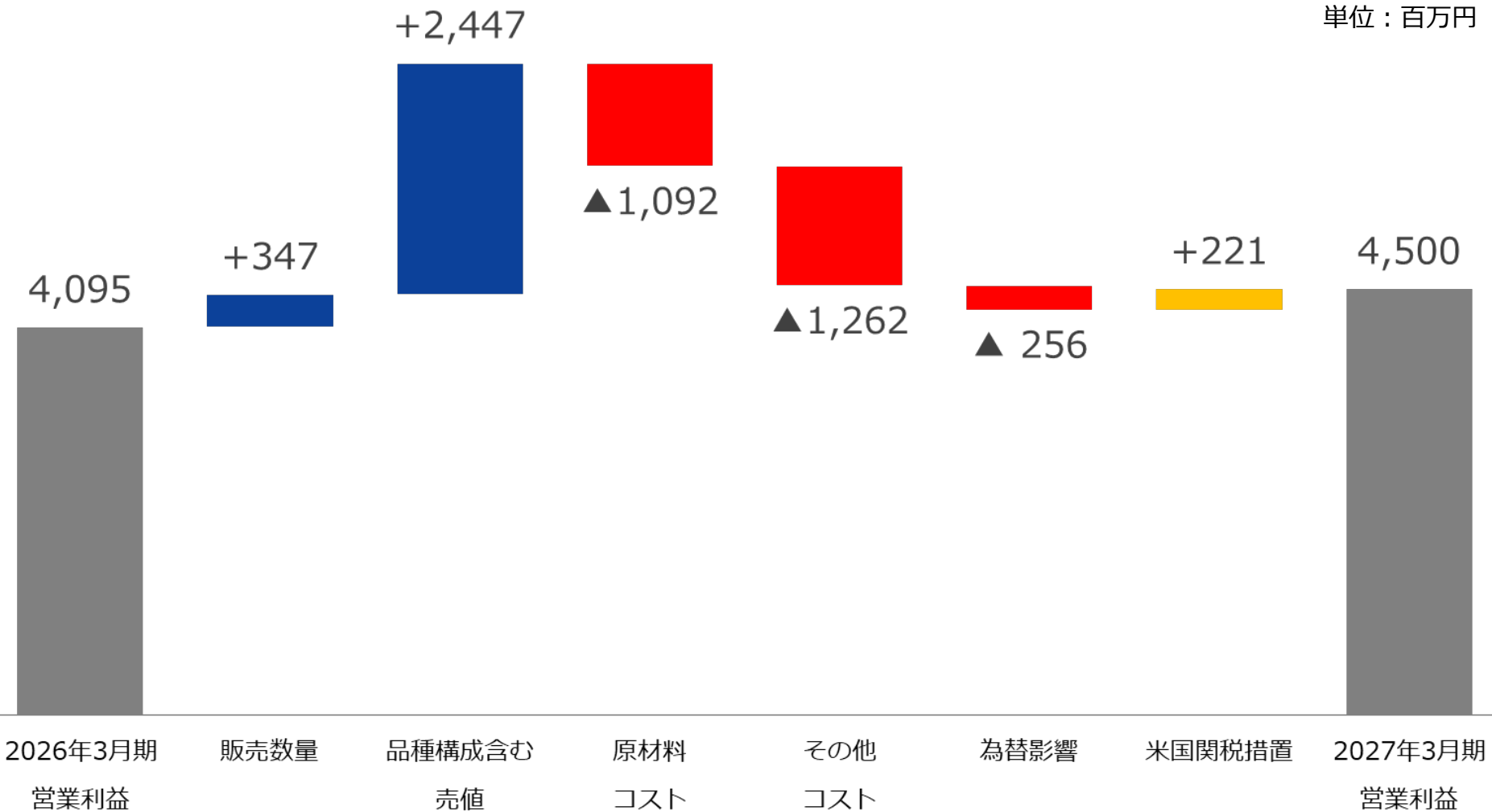
株主の皆様への利益配分を重要な責務と考え、本日公表の新中期経営計画期間における株主還元方針を、配当性向40%またはDOE(自己資本配当率)3.0%のいずれか高い金額を目途に安定配当の継続とし、2027年3月期は年間普通配当134円を予定。

営業利益増減要因分析 2026年3月期v.s.2027年3月期



前期比 405百万円増益

単位：百万円



セグメント別 事業見通し



電子・機能製品	機能化学品	+ 半導体市況回復及びAI需要拡大により、出荷が増加 - 中東情勢不安定化に伴う原材料コスト上昇により、損益へのマイナス影響
	機能樹脂	+ OEM受注拡大により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が増加 - 中東情勢不安定化に伴う原材料コスト上昇により、損益へのマイナス影響
	電子素材	+ 半導体及び電子部品市況回復により、出荷が増加 - 中東情勢不安定化に伴う原材料コスト上昇により、損益へのマイナス影響
フィルム・シート製品	加飾機能フィルム	+ 日本及び中国市場での拡販により、次世代高機能フィルムの出荷が増加 + ベトナムやインドネシア、南米での二輪車生産台数増加により、二輪車関連製品の出荷が増加 - 中東情勢不安定化に伴う原材料コスト上昇により、損益へのマイナス影響
	光学機能フィルム	+ 米国市場での拡販により、グラフィック用反射シートの出荷が増加 + 米国追加関税の違法判決に伴う還付により、損益へのプラス影響 - 欧州での自動車販売台数の減少により、ナンバープレート用反射シートの出荷が減少 - 中東情勢不安定化に伴う原材料コスト上昇により、損益へのマイナス影響
建材関連		+ 高層マンションの竣工増により、高強度高機能手すりの売上が増加 - 中東情勢不安定化に伴う原材料コスト上昇により、損益へのマイナス影響
エンジニアリング		+ カーボンニュートラルトランジション設備の受注増により、売上が増加

※ 2027年3月期よりフィルム・シート製品事業のカテゴリ区分を変更。

(主な製品は、加飾機能フィルムがフィルム・ステッカー、光学機能フィルムが再帰反射シート)

セグメント別 業績予想



単位：百万円

		2026年3月期	2027年3月期	前期比	
		実績	業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	16,837	17,600	763	+4.5%
	営業利益	1,479	1,640	161	+10.9%
フィルム・シート製品	売上高	22,395	23,000	605	+2.7%
	営業利益	2,945	3,350	405	+13.8%
建材関連	売上高	7,109	7,400	291	+4.1%
	営業利益	90	80	▲ 10	▲ 11.1%
エンジニアリング	売上高	4,041	4,500	459	+11.4%
	営業利益	233	330	97	+41.6%
連結調整	売上高	▲ 474	▲ 500	▲ 26	-
	営業利益	▲ 655	▲ 900	▲ 245	-
連結合計	売上高	49,909	52,000	2,091	+4.2%
	営業利益	4,095	4,500	405	+9.9%



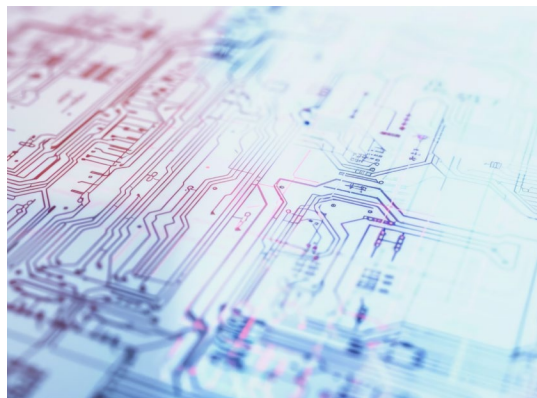
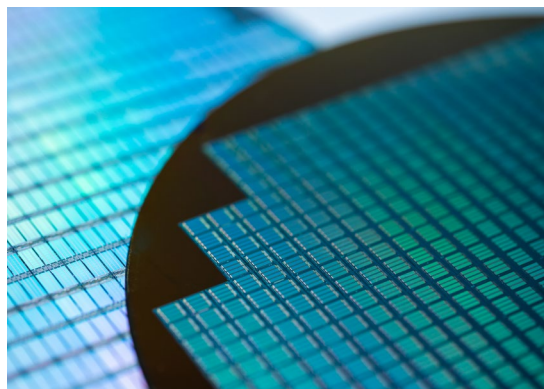
TOPICS

半導体後工程向けに引合いが増加、高機能新製品の開発推進

当社は半導体材料用の化学製品においてOne & Onlyの製品を提供しています。

半導体封止材料向け製品などの実績を背景に、後工程で使用する「RDL（再配線層）」向け材料などの引合いが増加しました。

生成AI向け半導体の需要拡大に伴い、製膜性や高耐熱性など高機能化ニーズへ対応すべく、新製品開発を推進していきます。

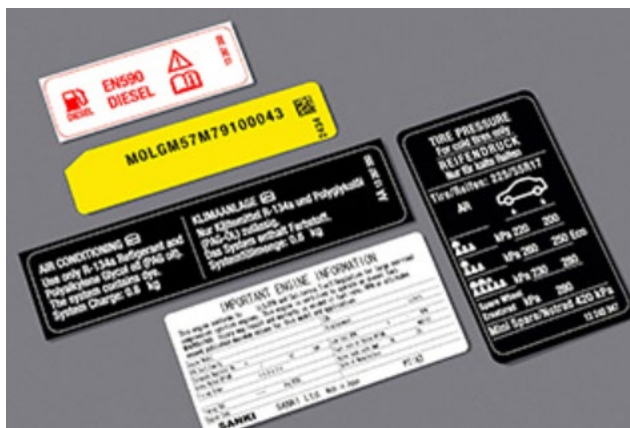


レーザーマーキングラベルの中国市場での採用拡大

当社のレーザーマーキングラベルは、改ざん防止性能と作業性を両立した次世代高機能フィルムです。印字性と優れた耐熱性・耐久性を有しており、自動車をはじめとし、さまざまな工業製品用途で使用可能です。

2026年3月期は、中国市場での拡販活動により、販売が増加しました。

2027年3月期は、優れた改ざん防止性能（脆質性）と様々な環境下でも扱いやすいハンドリング性を強みに、さらなる採用拡大を目指しています。





付属資料

連結業績の推移



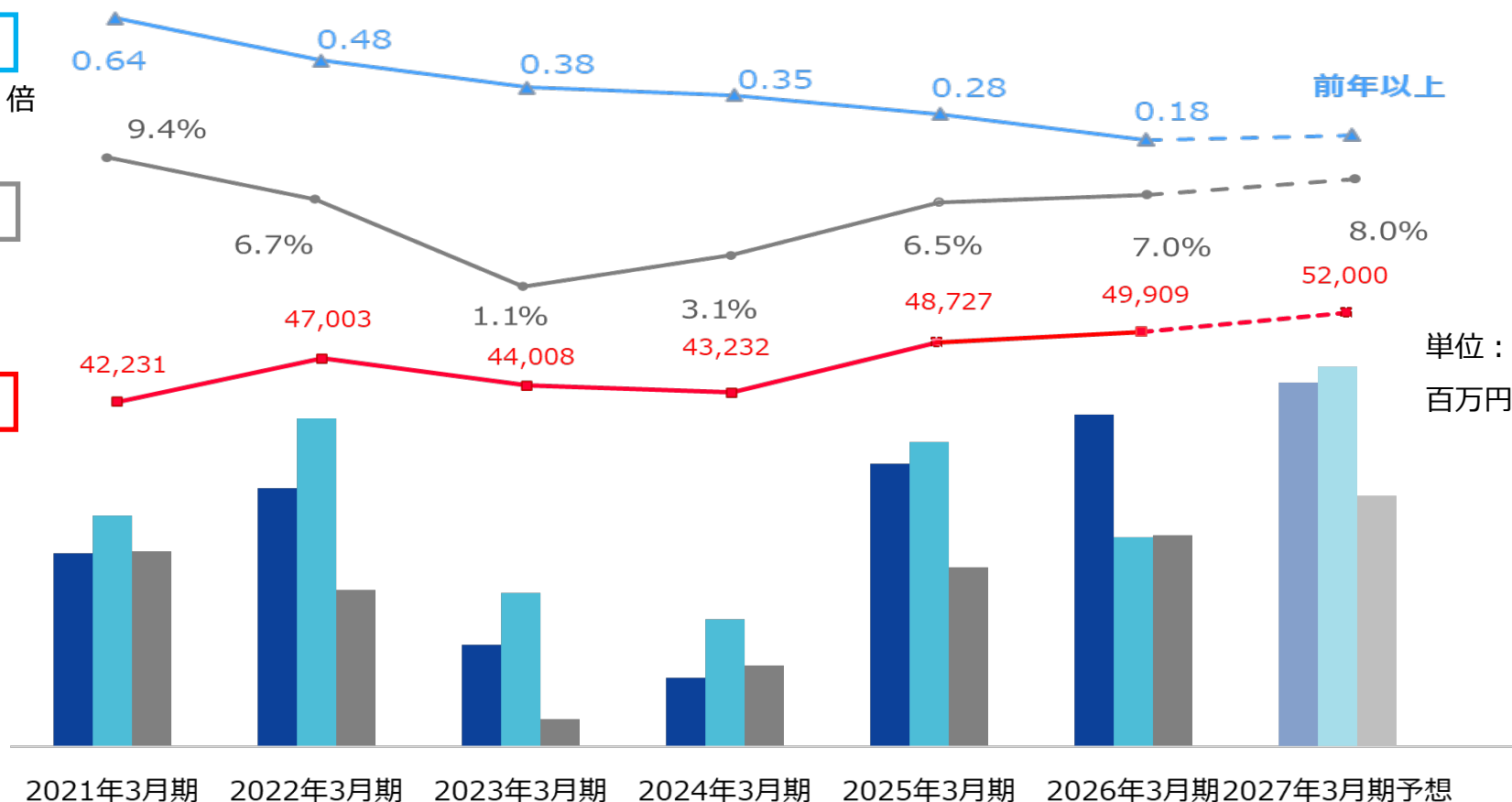
D/Eレシオ

単位：倍

ROE

売上高

営業利益
経常利益
当期純利益



	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期
売上高	42,231	47,003	44,008	43,231	48,727	49,909	52,000
営業利益	2,388	3,192	1,261	849	3,493	4,095	4,500
営業利益%	5.7%	6.8%	2.9%	2.0%	7.2%	8.2%	8.7%
経常利益	2,852	4,055	1,902	1,573	3,761	4,583	4,700
経常利益%	6.8%	8.6%	4.3%	3.6%	7.7%	9.2%	9.0%
当期純利益	2,406	1,930	332	999	2,211	2,607	3,100

アナリスト／投資家の皆様からご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。